

第 36 回日本臨床薬理学会優秀演題賞を受賞して

神経精神医学講座 准教授 古郡規雄

第三十六回日本臨床薬理学会総会（2015年12月8日～11日、東京京王プラザ）において優秀演題賞を受賞いたしました。受賞した演題名は「エスシタロプラムおよびデスメチルエスシタロプラムの定常状態血中濃度における CYP2C19 遺伝子多型の影響」です。本演題は、わたくしがグループを代表し、一般演題として発表させていただいたものです。

これまでわれわれは、向精神薬の薬物動態や治療反応性についての個体差のメカニズムを解明するべく、多方面から検討を重ねて参りました。今回の発表は、抗うつ薬エスシタロプラムを服用中のうつ病あるいはうつ状態の患者さんから採血をさせて頂き、薬物血中濃度と CYP2C19 遺伝子多型を同定し、エスシタロプラムの定常状態血中濃度に CYP2C19 遺伝子多型が関与し、本酵素欠損者ではエスシタロプラムの血中濃度が約 2 倍に上昇することを示した臨床研究です。薬物代謝酵素である CYP2C19 は日本人の 15～25%が欠損しており、臨床上重要な薬物代謝酵素です。

今後、この薬物代謝酵素の遺伝子解析がルーチンで行われるようになれば、より安全な薬物の投与設計が可能となることが期待されます。

